

金日成主席は朝鮮の最初の人民国家の創建者

ロシア連邦共産党沿海辺境委員会第一書記
ロシア連邦沿海辺境立法会議副議長
アナトリー・ニコラエビッチ・ドルガチェフ

金日成主席の尊名と業績について「偉大な」という表現を使うのは当然なこと
です。

金日成主席の尊名とともに「永遠なる主席」という称号には、実に真の人民の
最初の国家である朝鮮民主主義人民共和国の創建と発展において、生涯の全期
間にわたって収めた金日成主席の業績が反映されています。

もちろん、制限されたセミナーで、金日成主席が国家指導者として活動した、
その複雑多難な環境を具体的に叙述することは不可能です。

しかし、われわれはその中の一部については、格別な注目を払うべきであると
思います。

朝鮮民主主義人民共和国は、非常に複雑な環境の中で創建されました。

外的条件と内的条件に分けられますが、その中でどれがより大きな作用をし
たかについては話しません。

外的条件は国の境界外の条件を意味し、内的条件は朝鮮民主主義人民共和
国の領土内での条件を意味します。

外的条件としては、1905年から日本が実施してきた植民地支配と1945年に日
本軍国主義者を打ち破った民族解放戦争、1953年朝鮮人民の勝利として結束さ
れたアメリカ帝国主義との戦争を挙げることができます。

朝鮮人民が圧制者に反対してくり広げた武装闘争は、犠牲を伴いました。

その結果、国の生産力、つまり人的および物的生産力が破壊されました。

言うまでもなく、この時期に破壊された国の生産力を復旧することは容易な
ことではなかったし、さらに20世紀の科学的・技術的水準に相応しく復旧する
ことも非常に困難な事でありました。

戦後、南朝鮮に駐屯した米軍は、恒常的な緊張と挑発の根源となりました。

朝鮮半島において緊迫した複雑な情勢が現在まで続けられている根本原因も、
まさにここにあります。

内的条件としては、日本帝国主義の占領から解放された後、朝鮮民主主義人民
共和国が直面した難関を挙げることができます。

それは国家と党を創建する活動、言い換えれば人民的性格をおびた政治政権

を樹立することと諸般の民主主義改革を実施することでした。

ソ連とその他の社会主義諸国を通じて解明された社会主義建設の一般的法則を考慮に入れながら、それを独創的に具現できる方途を探求しなければなりません。

そして、その方途を探し出しました。それはチュチェ思想と軍事重視路線です。

自主国家である朝鮮民主主義人民共和国の内政にたいするアメリカの直接の軍事的干渉脅威が続く外的環境によって、国の武力も強化しなければならなかったし、それは軍事重視路線に反映されました。

内的条件として、鮮人民の指導者たち、金日成主席と主席の立派な後継者である金正日総書記と金正恩総書記が展開した思想・理論活動と政治・思想活動を挙げることができます。

特に、思想体系を確立しながらその統一性を保障することが必要でした。

強調したいことは、思想が社会の精神的所産であるだけではないということです。

思想が社会のすべての生活に具現されて社会を変化させるということです。

これは大衆的革新運動であるチョンリマ（千里馬）運動を通じて知ることができます。

「チョンリマ」という言葉は、われわれをして一日に千里を走るという伝説に出る神秘的な翼を広げた馬を連想させます。

チョンリマ運動は、1950年代の後半期に朝鮮民主主義人民共和国でおこなわれた労働生産能率を高めるための大衆的な運動です。

チョンリマ運動は、朝鮮労働党と共和国政府の支持のもと、すぐにより組織的な性格をおびるようになり、社会主義競争の一形態に発展しました。

この運動の参加者たちがくり広げた突撃作業は、5か年計画遂行において（1957－1961）高い経済指標を達成するようにし、国の工業化を成功裏に進めた要因の一つとなりました。

チョンリマ運動の参加者の姿は、宣伝活動と芸術、建築分野で大いに紹介されました。

その後、この運動に次いで「3大革命赤旗獲得運動」が発足しました。

チョンリマとともに党および国家機関で金日成主席の革命活動と密接に連関した「チョンサンリ（青山里）方法」と「テアン（大安）の事業体系」をはじめとした新たな活動体系が確立されました。

国際情勢の激化は、経済と国防政策のバランスを変化させることを要求しました。これは新たな路線を生みました。

1962年の朝鮮労働党中央委員第4期第5回総会で、経済建設と国防建設を並進させ、全人民的防衛体系を確立するという新たな路線が示されました。

金日成主席は総会で、全人民が片手には銃を、片手には鎌とハンマーをかかげていかなければならないと述べました。

朝鮮民主主義人民共和国の防衛力を強化し、その自立性を保障することを目標とした新たな政策では、全軍幹部化、全軍現代化、全民武装化、全国要塞化の四つの方針が示されました。

金日成主席が打ち出して推進させた新しい路線によって、朝鮮民主主義人民共和国は、複雑な国際情勢の中でも、自己の自主権と自主性を守り、朝鮮に正義の新しい社会を建設することができました。